

取締役会議長・指名委員長メッセージ



社外取締役
取締役会議長・指名委員長

松下 功夫 氏

取締役会の機能発揮状況

当社が指名委員会等設置会社へ移行して4年が経過し、この間、取締役会は、毎年の取締役会評価のPDCAサイクルに則り、着実な歩みを進めてきました。取締役会の監督機能を高めていくため、取締役会自身が自らのあるべき姿を真摯に考え続けてきており、執行側への批判的な議論を含め、緊張感のある関係が構築できていると考えています。

昨年の取締役会では、重大事案の発生を受けて、執行側に対して、外部目線から問いかけを続けた結果、信託銀行グループの原点である「業務品質」を高めて、お客さまや社会との信頼関係を強化する取り組みをさらに進める必要性を認識しました。

また、モニタリングボードとして執行側への権限移譲を進めた結果として、執行側の議論の状況を、より丁寧にフォローアップし、時には対応のスピードアップを求めるなど、さらに対話を深めていく必要性を感じており、2020年度の実績評価において今後の課題の一つとして提示しました。

今後も、こうした課題に向き合うとともに、取締役会議長として、持続可能な社会の実現と、当グループの持続的かつ安定的な成長の両立に向けた議論を充実させることで、ステークホルダーの期待に応えていきたいと思っています。

社長選定のプロセスとポイント

私は、当社が指名委員会等設置会社への移行と同じ2017年に社外取締役に就任し、取締役会議長を務めるとともに、指名委員会では委員長を務めています。指名委員会は、7名の委員のうち、私を含めた5名が社外取締役に構成されており、独立性の高い体制と考えています。このたびの社長の選定は、指名委員会等設置会社移行後初めての選定でありましたが、指名委員会では、2017年以後高度化を進めてきたサクセッションプランに則り、継続的に検討を積み重ねてきました。

具体的には、候補者が複数いるなかで、当グループを取り巻く経営環境や事業戦略、経営トップに求められる資質などを検討し、社長の選定にあたってはこれまでの実績に加えて人望、リーダーシップなど、幅広い範囲の観点から、経験豊富な各委員がそれぞれの知見に基づいて検討、議論し、面談を含む候補者審議を経て、2021年1月の指名委員会において答申案を取りまとめ、取締役会に提出しました。

全体として、今回の社長の選定に関しましては、客観性および透明性の高い審議が行われたと考えています。

■サクセッションプランに基づく経営人材の育成

